

1 歯欠損から 1 歯残存まで多様な欠損状態と咬合様式を有する症例を対象とすること、さらに被圧変位性の異なる歯根膜と粘膜の両方を支持組織とすることなどから、部分床義歯治療は複雑で難しくトラブルに対応しにくいとされることが多い。また、治療計画の立案や義歯の設計に有用な長期予後についての報告が少ないことも、部分床義歯治療を難しくする要因の一つとなっている。本講演においては、部分床義歯治療の予後と治療効果について当教室の臨床研究の結果を含めてお話させていただく予定である。